

「研究大学強化促進事業」中間評価 進捗状況概要 電気通信大学

目的

- 「小さくても光る大学」を目指して、学長のリーダーシップにより、**経営3戦略「知のボーダレス化」「連携と協働」「開放性と透明性」**に基づく研究力強化策を推進する。
- ☆オープンイノベーションを指向する新たな大学院教育の実現
 - ☆ネットワーク型URAの確立による研究支援体制強化
 - ☆研究広報の強化
 - ☆人事給与制度の抜本改革による人材登用の促進
 - ☆新たなフェローシップの創設による国際化の促進
 - ☆総合コミュニケーション科学の世界拠点形成

これまでの実績・取組状況

研究推進体制の強化

- ★学長直下に戦略立案・統括機能を集約
IR機能の強化(IR室新設)を含め、学長自らが室長となる研究戦略統括室(URAを配置)が中心となり、学内関連組織を統括する体制を構築。
- ★URA共創プラットフォーム(CoPURA)を創設
「ネットワーク型URA」の活動を活性化するためのプラットフォームを新設。共同利用オフィスを活用したワークショップやSNSによる情報発信など全国URA人材のネットワーク化を促進。
- ★産学共創等によるオープンイノベーション拠点を創設
民間資金の活用により100周年キャンパス「UECアライアンスセンター」(共同研究施設)を創設。本学重点研究分野の拠点オフィス、CoPURAオフィス、共同研究先企業、本学発ベンチャーなどが入居。

★国際化の促進

- ・海外拠点「UECアセアン教育研究支援センター」(バンコク)の開設
- ・新たな国際連携活動の展開(拠点機能強化)
米国: UCバークレイ校他、ベトナム: ホーチミン工科大他
メキシコ: 国立自治大他
- ・外国人著名研究者招へい事業の創設、UECポスドク研究員制度、研究者交流(短期派遣・招へい)支援制度など、国際化を促進する制度を実施。

★研究拠点形成の促進

- ・本学重点研究分野に係る拠点組織を新設
コヒーレント光量子科学研究機構の新設。
人工知能先端研究センターの新設(国立大学初のAIセンター)。
イノベーションエネルギーシステム研究センターの新設。
ナノライボロジー研究センターの新設。
- ・UECアライアンスセンターに、光科学、ワイヤレス通信、AI研究に係る拠点オフィスを設置。
- ・国際光年を記念した最先端の32研究テーマのひとつとして、米物理学会が本学光グループを選出し、春季総会でビデオ放映。

経営3戦略に基づく UECの研究力強化策

★人事制度改革と人材登用

- ・学長親任ポストの拡充、URA人事関連諸規程の整備、在宅勤務制度、UEC版サバイバル促進制度、研究エフォート率向上のための支援プログラム、クロスアポイントメント制度などの人事制度改革を実施。
- ・若手研究者、女性研究者への支援策(海外研修制度、研究支援員配置など)を実施するとともに、国際研究広報に精通した人材のスカウトなど、多様な人材登用策を実施。

★イノベティブな博士人材の育成

- ・1学部2研究科を1学域(学部)1研究科に統合。研究センターを強化(資源の重点配分)と博士課程教育との連携を強化。情報・理工学分野の強化と革新的融合分野の展開。
- ・グローバルアライアンスラボ(連携5か国7機関との国際連携ラボ)を開設。
- ・ダブルディグリープログラムに向けて、モスクワ物理工科大学との間で、執行部・学生も含めた多様かつ組織的な学術交流を強力に推進。

★研究広報の強化

- ・Unique & Exciting Research Symposiumの開催。
- ・WebニュースレターUEC e-Bulletinの開設。
- ・Science特集号への掲載など、戦略的な研究広報を推進。
- ・JST主催のイノベーションジャパン、産学パートナーシップ創造展、新技術説明会などで積極的に本学研究成果を発表。

小さくても光る
UEC

今後5年間の将来構想

D. C. & I. 戦略～組織連携・資金獲得～

これまでの本事業における「D:ダイバーシティ(多様性)」「C:コミュニケーション(さまざまな連携)」に係る取組を更に加速！
「組織連携の拡大」「資金獲得の促進」に焦点化して研究力強化策を推進し、教育(人材育成)、研究、社会貢献という大学の使命がスパイラルアップし「I:イノベーション」を創出する持続的な大学ガバナンスを確立！

イノベティブ人材の育成

西東京3大学連携による文理協働グローバル人材育成プログラム、卓越大学院構想の策定、グローバルアライアンスラボの強化・拡充など。

多様性を確保する人材登用策

女性・若手・外国人の積極的登用。特に女性リーダー育成、研究者の組織化を促進するキーパーソンとなる「研究インテグレイター」の発掘・育成など。

組織的な国際連携

ダブルディグリー等の海外との連携プログラム、海外拠点機能の強化、国際共同研究の促進など。

研究者の組織化・異分野組織間連携

物理学(オプティクス)の継続的強化、「AI for X」を旗印とする1大研究拠点の創設など。

戦略目標に向けた研究推進体制

URA共創プラットフォーム(CoPURA)の活動を通じた「ネットワーク型URA」の普及・定着、研究者の組織化を促進するための「研究インテグレーションプラットフォーム」の整備など。

中間評価結果

評点区分: A

全体に対する所見

構想の実現に向けたこれまでの取組によって、計画は順調に進捗していると考えられる。将来構想の実現にあたっては、URAの人事評価制度の可視化を行うとともに、本事業を着実に推進できる、財政面を含めた計画が期待される。

当初構想・計画の進捗状況に対する所見

学長のリーダーシップによる全学的体制の整備が進んでおり、「研究戦略統括室」を中心とする、学内関連組織との有機的連携も含め評価できる。

今後5年間の将来構想に対する所見

「D.C.&I.戦略」に示された方針は、今後の具体案の実施につながると考えられる。今後5年間に想定される問題の打開方法を具体化し、ロードマップを含めた計画の精密化が必要と考えられる。